



いいこいの森



写真は2023年の様子
2024年は8月25日(日)開催されます

横浜旭ジャズまつり(旭区・こども自然公園)

当院の使命を果たし続けたい

2024年はパリオリンピックが開催され、日々の努力の積み重ねが大成に向かう現実を目の当たりにし、世界が大きな感動に包まれています。医療界では2024年度診療報酬改定が行われ、地域医療構想の最終年である2025年に向けて、医療計画の見直しが行われます。特に地域包括ケアシステムの構築や医療機関の連携、協力機関の明確化など医療と介護との有機的連携を評価する内容と言われています。聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院はこれからも大学病院として、また地域支援病院として、地域医療従事者の皆様とともに地域貢献していきたいと考えます。

これからますます発達していく医療DXを推進・活用しながら、有意義な連携をもとにVUCAの時代を乗り切り、当院の使命を果たし続けたいと考えます。どうぞよろしくお願いたします。



副院長 北原 日美紀

Contents

- リウマチ・膠原病内科のご紹介…………… 2ページ
- 院内施設のご案内(ハート・イン/メフォス)…………… 2ページ
- 禁煙外来のご案内…………… 3ページ
- 聖マリアンナ医科大学看護専門学校のご紹介…………… 3ページ
- 連携登録医のご紹介(室伏整形外科医院)／連携登録医とは?… 4ページ
- 新規連携登録医のご紹介…………… 4ページ



リウマチ・膠原病内科のご紹介

関節リウマチの寛解を目指して

リウマチ・膠原病内科
部長 山崎 宜興

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院のリウマチ・膠原病内科は2002年4月に当時の総合診療内科の一部門として生まれ、後に独立した診療科となった比較的新しい診療科です。関節リウマチをはじめとした膠原病を診療します。

膠原病の分野での代表疾患は関節リウマチです。日本では100人に1人の割合で発症し、患者数は70万人～100万人とされています。複数の関節に炎症を起こし、その結果軟骨や骨は破壊され、関節の機能が障害される病気です。私が研修医だった頃(90年代)は、関節リウマチ患者さんの多くは、十分に病態を制御できず、関節が変形し、機能障害のために車椅子で診察室に入ってこられていました。

関節リウマチの治療には抗リウマチ薬を用いますが、特に2000年以降、新たな抗リウマチ薬として生物学的製剤が登場し、関節リウマチ患者さんの予後は劇的に改善しました。現在では治療法の進歩により関節リウマチの寛解も夢ではない時代となりました(勿論、今でも残念ながら疾患活動性を制御できず関節機能障害をきたした患者さん、あるいは合併症のために様々な臓器障害をきたした患者さんもいらっしゃいます)。

当科では膠原病の早期に診断、速やかな治療を行うよう心がけています。関節リウマチ、膠原病に対し生物学的製剤や免疫抑制薬を積極的に用い、ステロイド投与量をなるべく減らす努力をしています。

リウマチ・膠原病内科のスタッフは3人と当院の内科系では最も小所帯ですが、大学本院とも連携もし、これまで以上に診療を通じて地域に貢献したいと思えます。

関節リウマチとは？

- ・原因は十分には明らかになっていない自己免疫疾患。
- ・免疫異常により複数の関節に炎症が起こり、関節が腫れ、変形を引き起こす。

疫学

- 100人に1人が発症(日本で患者数は70～100万人)
- 発症は30～50歳代に多いが、最近では高齢発症も増加している
- 女性に多いが、男性も罹患する

症状

- 関節の痛み・腫れ(関節腫脹)
- 関節以外にも合併症を起こすことあり(特に肺が多い)

治療

- 抗リウマチ薬(メトトレキサート、生物学的製剤など)



院内施設のご案内

医療衛生売店(地下1階)



ハート・イン西部店



平日 9:00～18:00
土(第2・4・5) 9:00～15:00
土(第1・3)日祝 休業

衛生材料、つえ等ございます。お気軽にご来店ください。

外来食堂(地下1階)

メフォス



日替わりで定食・丼物・カレー・
麺を提供しており、外来患者さん
や地域住民の方など、どなたでも
ご利用いただけます。

(営業:病院診療日の11時～14時)



禁煙外来 やってます

「一服の代わりに一步を。禁煙で始める新しい生活。」

禁煙が長続きしないのは、決して意思が弱いからではありません。喫煙習慣の本質が「ニコチン依存症」であるためです。血中のニコチン濃度がある一定以下になると不快感を覚え、喫煙を繰り返してしまう疾患。喫煙してニコチンを常時摂取するようになると、これらの神経伝達物質の調節をニコチンに委ねてしまいます。そのため、禁煙したり、たばこを吸えない状態が続くと神経伝達物質の分泌が低下し、さまざまなニコチン離脱症状が出現することになります。たばこが吸えない状態が続いたときに喫煙することによって、離脱症状という不快な症状が消失するため、再び喫煙を続けてしまう現象（負の強化）が起こります。その強化の結果、喫煙を繰り返してしまうのがニコチン依存症の特徴です。

禁煙外来の治療

1. 喫煙の状況について問診、ニコチン依存度テストなどを行う
2. 禁煙開始日を決める
3. 禁断症状を和らげる禁煙補助薬（貼り薬など）を必要に応じて処方

健康保険による禁煙治療スケジュール（12週に5回の治療にて完了）

初診 → 2週間後 → 4週間後 → 8週間後 → 12週間後



呼気CO（一酸化炭素）検査の実施、禁煙継続の問題点を抽出、処方など

どちらがお得？ ※保険診療には条件があります。

1. 保険診療（3割負担）の場合…約12,000円
2. 自費診療の場合……………約40,000円
3. 例）たばこ代1箱 600円（1日1箱）×12週=50,400円



看護師への第一歩、ここから始まる未来！

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 オープンキャンパス開催

日時：8月24日（土）10時～12時

会場：聖マリアンナ医科大学病院3階大講堂

（川崎市宮前区菅生2-16-1 TEL.044-977-9615）

オープンキャンパスで看護の世界をのぞいてみよう！

公式Webサイトでオープンキャンパス、入試情報などをチェック！



